

噴水

この噴水は上にある霞ヶ池を水源としており、自然の水圧があがっている。通常、水の高さは3.5メートルで、霞ヶ池の水位の変化によって変わる。1861（文久元）年、金沢城二の丸の居間先に噴水があがっているが、兼六園の噴水はその試作といわれている。日本最古といわれている噴水である。



雁行橋（がんこうばし）

11枚の赤戸室石を使って雁が列をなして飛んでいる姿に作られているので雁行橋と呼んでいる。また、一枚一枚の石が亀甲の形をしているので別名を亀甲橋ともいう。



明治紀念之標

文化財指定庭園 特別名勝



松平定信筆「兼六園」の扁額
県立伝統産業工芸館にてご覧いただけます。



紅葉に彩られる
こよひ
徽軫灯籠

石川県金沢城・兼六園管理事務所

金沢市丸の内1番1号

TEL (076) 234-3800

FAX (076) 234-5292

<http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/kenrokuen/>



国立工芸館
(2020年完成予定)

石川県立美術館

本多の森公園

石川県立美術館広坂別館
石川県文化財保存修復工房

石浦神社

加賀本多博物館

石川県立歴史博物館

石川県立能楽堂

金城壺沢
さんじょういたく

放生池
ほうじょういけ

旧津田玄蕃邸
つだけんぼ

いぼとり石

時雨亭
しぐれい

瓢池
ひさこ

金沢神社

隨身坂
ずしん

舟之御亭
ふねのおちん

長谷池

翠滴
みどり

重文成翼閣
せいもんかく

石川県立伝統産業工芸館

栄螺山
さざえ

獅子巖
しじゆ

黄門橋

小立野

花見橋

根上松
ねあがりのまつ

内橋亭
うちばし

霞ヶ池
かすみ

蓬莱島
ほうらい

常噴水
じょうふんすい

磐ヶ岡

沈砂池
ちんさち

龍石
りゆうせき

鶴鶴島
つるつるじま

千歳台
ちとせだい

地藏堂
じざいどう

唐崎松
からさきのまつ

微軫灯籠
ことし

虎石

氷室跡

山崎山

芭蕉の句碑
ばしゅうのくひ

明治紀念之標

千歳橋
ちとせばし

兼六園
兼六園
熊谷桜
くまがい

雪見橋

唐崎松
からさきのまつ

月見橋

虹橋

寄観亭

上坂

雁行橋
がんこうばし

七福神山

眺望台

桜ヶ岡

兼六坂

玉泉

■ 濃色部分は有料区域



唐崎松 (からさきのまつ)

兼六園の中で最も枝ぶりが見事な松である。13代藩主・斉泰が琵琶湖畔の唐崎から種子を取りよせて実生から育てた黒松である。11月1日に雪吊り作業を始める。北陸に冬の訪れを告げる風物詩となっている。

ユリヤス



兼六園菊桜
花弁の数は300枚を
超えるのが、
一番の特徴。



曲水

園内を流れる曲水の豊かな水は、1631年の寛永の大火の翌年、3代藩主・利常の命により町人板屋兵四郎が、城の「防火用水」としてつくった辰巳用水を利用してしている。両岸には桜が植えられ、4月の開花時には社若の若緑とともに美しい景観を楽しめる。



石川門

石川門は三十間長屋とともに旧金沢城の数少ない遺構の一つである。建立されたのは1788（天明8）年で、国の重要文化財に指定されている。白く輝いている屋根は鉛瓦である。



夕顔亭（ゆうがおてい）
園内に現存する最も古い建物で、1774（安永3）年に建てられた茶室である。茶席の次の間の袖壁に夕顔（瓠瓜）の透があるので夕顔亭という亭名がつけられている。

時雨亭（しぐれてい）

5代藩主・綱紀がはじめて本園を作庭した頃からあった建物で、蓮池御亭と呼ばれていた。6代藩主・吉徳によって建て替えられたが、藩政後期には時雨亭とも呼ばれ、今の噴水の前にあった。明治のはじめに取り壊されたが現在の建物は2000（平成12）年3月にこの地に再現させたものである。



花見橋

花見橋から眺める花は見事である。桜、ツツジやカキツバタが花をつける時期が特に美しい。



根上松 (ねあがりのまつ)



梅林



兼六園は江戸時代の代表的な林泉回遊式大名庭園の特徴をそのままに
に残している。

もともと兼六園は金沢城の外郭として城に属した庭であった。

庭としての歴史は、城に面した傾斜地が古い。加賀藩5代藩主・前
田綱紀が1676（延宝4）年、この地にあった作事所を城内に移し、蓮
池御亭を建て、その周辺を作庭した。これが本園の始まりで、当時、
蓮池庭などと呼ばれていた。

1759（宝暦9）年の金沢大火で、蓮池庭も一部焼失、荒廃した。11代
藩主・治脩は復興に取り組み、1774（安永3）年に今にみる夕顔亭や翠
滝を築造している。

一方、東南の平坦地である千歳台一带は、7人の家臣の屋敷があっ
たり、藩校が建てられるなどの変遷があったが、1822（文政5）年
には12代藩主・斉広の豪壮な隠居所「竹沢御殿」が完成している。その庭
には辰巳用水を取り入れて曲水をつくり、各種の石橋を架けた。竹沢
御殿の完成した年に、中国宋の時代の詩人・李格非の書いた「洛陽名園
記」の文中から採って、宏夫・幽邃、人力・蒼古、水泉・眺望の六勝を
兼備するという意味で「兼六園」が命名された。

竹沢御殿完成後、わずか2年で斉広は死去した。同御殿を取り壊し
た13代藩主・斉泰は、霞ヶ池を掘り広げ、曲水の新たな取り入れも行い、
以前からあった蓮池庭と調和するよう作庭した。

こうして、今にみる雄大な回遊式庭園の基本的な構図はできあがった。

廃藩後、1874（明治7）年5月7日、兼六園は一般開放された。
1922（大正11）年3月8日に「史跡名勝天然記念物保存法」の規定に
より、*名勝。の指定を受けた兼六園は1950（昭和25）年、現「文化財
保護法」により、改めて*名勝。の指定を受けた。

さらに、1985（昭和60）年3月20日、*特別名勝。となった。



開園時間：3月1日～10月15日 7:00～18:00
 (年中無休) 10月16日～2月末日 8:00～17:00
 入園料：大人320円(18歳以上) 団体：大人250円
 小人100円(6歳～17歳) (30名以上) 小人 80円